

東日本大震災から10年 震災対策について再確認

宮城県沖地震の30年以内の発生確率は東日本大震災前の水準に戻りつつあります。

東日本大震災を振り返り、震災対策について再確認しましょう。



宮城県沖での地震発生確率（地震調査研究推進本部）		算定基準日 令和3年（2021年）1月1日		
地震名	地震規模	10年以内	30年以内	50年以内
超巨大地震 （東北地方太平洋沖型）	M9.0前後	ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%
宮城県沖の プレート間巨大地震	M7.9程度	9%	20%程度	40%程度
宮城県沖の ひとまわり小さいプレート間地震	M7.0～7.5程度	50%程度	90%程度	90%程度以上
宮城県沖の陸寄りの地震 （宮城県沖地震）	M7.4前後	ほぼ0～0.4%	60～70%	90%程度

ライフラインの復旧状況

（大崎管内で復旧まで最も時間を要した市町での日数）

電気 4月 9日（発災から29日後）

水道 4月 17日（発災から37日後）

ガス 3月 21日（発災から10日後） ※集中プロパンガス配管の地域は翌年4月に完全復旧



避難所の開設（大崎管内）

最大避難所数 123ヶ所（最長開設期間3月11日から10月1日まで 204日間）

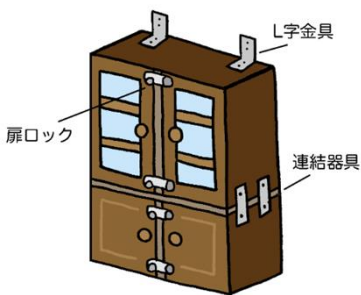
最大避難者数 14,525人

※参考文献

『東日本大震災-宮城県の発災後1年間の災害対応の記録とその検証-』（宮城県総務部危機対策課）

東日本大震災から10年 震災対策について再確認

身のまわりの備え



家の中を点検し、家具の転倒防止、飛散防止フィルムの貼り付けなど、前もって地震に備えましょう。

家族での話し合い



家族の連絡方法、避難場所への安全な道順、家族が別々の場所で地震にあったときの対応など、家族内で話し合っておきましょう。



備蓄品の確保



家族が最低3日間、できれば1～2週間過ごせる量が目安です。



「ローリングストック」

食べ物や日用品を少し多めに購入し、日常生活で古いものから順に消費し、食べた分を買い足し、補充しながら備蓄していく方法

ホームタンクの転倒防止

令和3年2月13日に発生した福島県沖の地震において、転倒したホームタンクから油が流出し、水道水供給に影響を及ぼした事案がありました。

タンクの固定、腐食、破損の有無について確認をお願いします。

